



Title	包括的な家族介護者のエンパワメント尺度開発のための 項目案の作成
Author(s)	ト藏, 春香; 岡野, 琴美; 小西, かおる
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2025, 31(1), p. 84-91
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100232
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

包括的な家族介護者のエンパワメント尺度開発のための項目案の作成

Draft Items for the Development of a Comprehensive Family Caregiver Empowerment Scale

ト藏春香¹⁾・岡野琴美²⁾・小西かおる³⁾
Haruka Bokura¹⁾, Kotomi Okano²⁾, Kaoru Konishi³⁾

要 旨

本研究の目的は、包括的な家族介護者のエンパワメント尺度の開発に向けた項目案の作成である。まず、文献レビューと訪問看護師に対する半構造化面接により、構成概念および項目案を作成した。次に、訪問看護師を対象としたデルファイ法調査を実施し、最終的な同意率を算出した。同意率を 50%に設定し、「わかりやすさ」「重要性」が共に同意率 50%以上を超えた項目を A、「わかりやすさ」が 50%以上で「重要性」が 50%未満の項目を B、「わかりやすさ」が 50%未満で「重要性」が 50%以上の項目を C、「わかりやすさ」「重要性」が共に同意率 50%以下の項目を D と分類し、最終的に A 判定が 25 件、C 判定が 3 件であった。この構成概念には、療養者だけでなく家族介護者が自身を大切にする要素と療養者と家族介護者がお互いを思いやる要素が含まれている。これらの構成概念は、在宅で家族介護を継続するにあたり重要であると考えられ、あらゆる年代の家族介護者に調査を行い、家族介護者のエンパワメントの内的整合性・再現性による信頼性の検討と内容妥当性・構成概念妥当性を確認し、尺度を開発する必要がある。

キーワード：家族介護者、エンパワメント、尺度開発

Keywords : family caregiver , empowerment , scale development

I. 緒言

令和 3 年度社会生活基礎調査¹⁾によると 15 歳以上で日常的に家族を介護している人は、約 653 万人である。主な介護者と要介護者等の続柄は、配偶者 (22.9%) が最も多く、次いで、子 (16.2%) であり、45.9%が同居しており、65 歳以上の老々介護が 63.5%を占める。同居の主な介護者は、女性の配偶者 (45.7%) が最も多く、終日介護をしている女性介護者は 74.5%である²⁾。在宅介護を継続するためには、介護の評価が否定的な側面だけでなく肯定的な側面からも捉えることが重要であると報告されている³⁾。

家族介護者が介護を肯定的に捉えるためには、家族介護者が要介護者のみならず、自身の健康にも気を配り、自らの判断で、介護に関連する様々なことに対処できるようになっていく家族介護者のエンパワメントに着目し、家族介護者自身が、自らのエンパワメントを評価できることが重要である。これまでに開発された家族介護者のエンパワメント尺度は、疾患特異性^{4) 5) 6)}を考慮したもの、中国人⁷⁾を対象としたものや、要介護者への介護力に焦点が当てられており、日本の家族介護者の特徴を考慮した、包括的な家族介護者のエンパワメント尺度は見られない。そのため、家族介護者が、自身の健康にも気を配り、介護を肯定

的に捉える要素を盛り込んだ家族介護者のエンパワメント尺度を開発し、家族介護者自身が、評価できるようにする必要があると考える。

本研究の目的は、療養者の疾患に影響を受けない包括性を考慮した、家族介護者エンパワメント尺度の項目案の作成である。今後、家族介護者のエンパワメント尺度の信頼性・妥当性が検証されることにより、家族介護者自身が、客観的に介護をとらえることができ、家族介護者のエンパワメントの弱い部分に焦点化した支援を受けることに繋がる。これにより、家族介護者のエンパワメントを促進する専門職の支援の質向上に繋がることが期待できる。

II. 研究方法

1. 項目原案の作成

1) 文献レビュー

既存の家族介護者エンパワメントの研究から、家族介護者エンパワメントの質問項目案を抽出するために、医中誌で「家族介護者」・「エンパワメント」のキーワードで検索を行った。また、

PubMed、CiNii では「family caregiver」・「empowerment」のキーワードで検索を行った。これらにハンドサーチで得た文献を追加した。収集した文献のうち、重複しているもの・入手不可能

¹⁾大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 ²⁾大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 ³⁾大阪大学大学院医学系研究科

なもの・結果にエンパワメントの構成要素が含まれていないもの・会議録・解説・総説を除外した結果、最終的に 15 編を分析の対象とした。15 編の論文の結果に記載されているエンパワメントの構成要素のうち、疾患特異的でなく共通性のあるものをコードとして抜き出し、意味の類似性・相違性を検討し、サブカテゴリー・カテゴリー化を行った。カテゴリーを家族介護者のエンパワメント尺度の構成概念、サブカテゴリーを項目案とし整理した。

2) 訪問看護師に対する半構造化面接

文献レビューで得られた構成概念が、家族介護に重要なものであるかを再確認し、新規性を確保するために訪問看護師に対する半構造化面接を行った。対象は、訪問看護経験年数 5 年以上の訪問看護師 6 名である。インタビューには、文献レビューで明らかにした家族介護者のエンパワメントの構成概念および項目案を参考に作成したインタビューガイドを用いた。インタビューより逐語録を作成し、逐語録を最小の意味に区切ったものをコードとし、意味の類似性・相違性を検討し、サブカテゴリー・カテゴリー化を行い、家族介護者のエンパワメント尺度の構成概念および項目案を抽出した。インタビューは、研究目的・方法・研究に対する参加の自由、研究不参加による不利益を被ることはないこと、個人情報の取扱いについてインタビュー前に文書で説明し、当日、口頭で説明ののち書面で同意を得た。インタビュー中であっても、インタビューを中止し、同意を取り消せるように配慮した。

3) 項目案の最終版作成

「1.文献レビュー」と「2. 訪問看護師に対する半構造化面接」で得られた構成概念および項目案を意味の類似性・相違性を考慮して統合し、構成概念についても再検討した。

2. デルファイ法を参考にした 2 回の質問紙調査

調査前に、質的研究および尺度開発の経験がある研究者と家族介護者エンパワメントを獲得する順番も考慮した、各種構成概念の質問項目案の表現を検討し修正した。デルファイ法では、標準的な合意の割合は存在しないとされており⁸⁾デルファイ法でのコンセンサスを示す同意率は、研究者によりさまざまである。本研究では、訪問看護師の意見を幅広く取り入れるため、回答者の半数を超えるレベルとして、同意率を 50%に設定し、「わかりやすさ」「重要性」が共に同意率 50%以

上を超えた項目を A、「わかりやすさ」が 50%以上で「重要性」が 50%未満の項目を B、「わかりやすさ」が 50%未満で「重要性」が 50%以上の項目を C、「わかりやすさ」「重要性」が共に同意率 50%以下の項目を D と分類した。質問紙調査は、無記名での回答とし、個別に同封の返信用封筒で、質問紙の返送をもって研究参加の同意をしたと判断することを文書で説明した。

1) 第一回調査

第一回調査では、家族介護者が回答することを想定した際、質問項目案の「わかりやすさ」と「重要性」それぞれを 5 段階のリッカートスケールで回答を求める質問紙を作成し、訪問看護師 100 名を対象に調査を行った。リッカートスケールは「5: とてもわかりやすい」～「1: とてもわかりにくい」と「5: とても重要だ」～「1: まったく重要ではない」に設定し、5 点と 4 点を「わかりやすい」「重要である」と判断し、合計得点を算出した。各項目について自由記述欄を設け、項目に関する意見を収集した。項目を修正する際は、回答する全ての家族介護者が、質問の意図を同じように理解できるのか・項目の表現は理解しやすいものであるかという点に注意した。

2) 第二回調査

第二回調査では、第一回調査の項目案を修正した。より多くの訪問看護師の意見を反映した結果を得るために、訪問看護師 30 名を対象に調査を行った。第二回調査では、4 段階のリッカートスケールで回答を求める質問紙を作成した。リッカートスケールは「4: とてもわかりやすい」～「1: とてもわかりにくい」と「4: とても重要だ」～「1: まったく重要ではない」に設定し、4 点と 3 点を「わかりやすい」「重要である」と判断し、合計得点を算出した。各項目について自由記述欄を設け、項目に関する意見を収集した。

本研究は、大阪大学医学部附属病院倫理審査委員会 (No.220084-2022 年 6 月 6 日) の承認を得て実施した。

III. 結果

1. 項目原案の作成

文献レビューにより 15 編の文献のレビューから家族介護者のエンパワメント尺度の構成概念および項目案を抽出したところ、家族介護者のエンパワメント尺度として【主体的に行動する】、【関係性を維持する】、【知識や技術の習得】、【介

護への肯定的感情】、【介護への意識・結果・期待】、【頼れる存在がいる】の6構成概念18項目が抽出された。

訪問看護師に対する半構造化面接の結果、家族介護者のエンパワメント尺度として【自己管理しながら介護する】、【療養者のことを大切に思っている】、【知識や技術の習得】、【介護への満足感】、【介護への思い】、【必要なときは、誰かを頼ることが出来る】の6つの構成概念および24の項目が抽出された。家族介護者のエンパワメント尺度の構成概念および項目案を明確にするために「文献レビュー」および「訪問看護師に対する半構造化面接」の結果を意味の類似性、相違性を意識して統合し、有識者によるコンセンサスメソッドののち、最終版構成概念および項目案を作成した。最終的に、家族介護者のエンパワメント尺度を【自分の健康を保つ】、【療養者と良好な関係を築く】、【介護することを覚悟する】、【介護に必要な知識や技術を習得する】、【日常の介護において、自分で判断して行動する】、【他者の力を借りる】、【介護を肯定的に捉える】の7構成概念および28項目案による最終版とした。その結果を表1に示す。また、家族介護者のエンパワメントを「自分の健康を保ちながら、知識や技術を習得することによって、自分で判断して介護をし、必要なときには他者を頼ることで、徐々に安定した介護生活を送る過程」と定義した。

2. デルファイ法を用いた質問紙調査

第一回調査の対象は、訪問看護師経験年数が平均13年(中央値15)、返送は11件(返送率11%)、A判定が23件(82%)、B判定が1件(3%)、C判定が4件(14%)であった。「1. 自分自身の体調管理を心がけている」は自由記述欄より「定期的に健康診断を受けている」という表現に修正した。

「5. 療養者とのこれまでの良好な関係を振り返る機会がある」は自由記述欄より、家族介護者と療養者の関係が、必ずしも良好でなくとも介護をしている人もいるということから「5. 療養者とのこれまでの関係を振り返る機会がある」という表現に修正した。「11. 療養者により良い生活を送ってもらいたいと思っている」は自由記述欄のより「療養者が安心して生活を送ってもらいたいと思っている」に修正した。「12. 最後まで介護をやりきりたいと思っている」はB判定だったが、先行研究により、最後まで在宅ケアをやり遂げたという充実感は、死別後の介護者の生活の再構築に

繋がる自己肯定感となっている⁹⁾ことが明らかとなっており、家族介護者のエンパワメントには重要な要素であると考えたため残すこととした。そして、自由記述欄より、希望しても最後までやり切ることができない状況も考えられるため「できるかぎり、最後まで介護をやりきりたいと思っている」という表現に変更した。「17. 日常の介護において自分で判断して行動している」「25. 介護により励まされている」「27. 介護は自身の成長につながっている」「28. 介護に自信をもっている」はC判定だった。これらは重要であるが、質問の意図がわかりにくいと判定されたものである。「17. 日常の介護において自分で判断して行動している」は、自由記述欄より、家族介護者が自身で判断していることを大切にしたいと考え「日常の介護においてまず必要なことをまず自分で判断している」に修正した。そして、家族介護者の回答のしやすさを検討して【他者の力を借りる】は、項目案の順序を変更した。「28. 介護に自信をもっている」は、自由記述欄と介護にポジティブな面も含めたいと考え「自分は介護をうまくやれているほうである」とした。「25. 介護により励まされている」「27. 介護は自身の成長につながっている」は、研究者間で検討を重ねた結果、このままでも意図が伝わると判断し、修正を行わなかった。第一回調査において、修正した項目案を赤色の文字で表2に示す。

第二回調査では、訪問看護師経験年数が平均9年(中央値5)、返送は6件(返送率5%)、A判定が25件(89%)、C判定が3件(11%)であった。

「1. 定期的に健康診断を受けている」「2. 休息がとれている」「28. 自分は介護をうまくやれているほうである」はC判定であった。「1. 定期的に健康診断を受けている」は修正をしたが、C判定となったため自由記述欄を参考に研究者間で再度検討し「自分自身の体調管理を心がけている」という元の表現に戻すこととした。「2. 休息がとれている」は、第一回調査ではAだったが、第二回調査ではCとなった。自由記述欄を参考に「睡眠がとれている」という表現に修正した。「28. 自分は介護をうまくやれているほうである」は、第一回調査より修正したがC判定のため検討した結果、修正しないこととした。

表1 家族介護者のエンパワメント尺度の構成概念および項目案の最終版

構成概念	質問項目案
①自分の健康を保つ	① 自分自身の体調管理を心がけている ② 休息がとれている ③ 息抜きの時間がもてている ④ 自分自身の楽しみの時間がある
②療養者と良好な関係を築く 【関係性を維持する】【療養者のことを大切に思っている】	① 療養者とのこれまでの良好な関係を振り返る機会がある ② 療養者を大切に思っている ③ 療養者の思いをしっかり聞いている ④ 自分の思いを療養者に伝えている
③介護することを覚悟する	① 療養者の介護には自分の力が必要だと思っている ② 療養者の希望をなるべくかなえたいと思っている ③ 療養者により良い療養生活を送ってもらいたいと思っている ④ 最後まで介護をやりきりたいと思っている
④介護に必要な知識や技術を習得する 【知識や技術の習得】【知識や技術の習得】	① 療養者の疾患・障害に関する知識がある ② 介護に必要な社会資源の知識がある ③ 介護に必要な技術を身につけている ④ 自分なりに工夫して介護している
⑤日常の介護において、自分で判断して行動する 【主体的に行動する】【必要なときは、誰かを頼ることが出来る】	① 日常の介護において自分で判断して行動している ② 日常の介護において療養者に起こり得る危険を知っている ③ 援助を要請する必要がある療養者の体調変化がわかる ④ 自分で対応できない時の連絡先を知っている
⑥他者の力を借りる 【他者の力を借りる】【必要なときは、誰かを頼ることが出来る】	① 他者に介護の相談をしている ② 社会資源を活用している ③ 周囲の人に介護からの支援を求めている ④ 専門職からの助言を求めている
⑦介護を肯定的に捉える 【介護への意識・結果・期待】【介護への思い】	① 介護により励まされている ② 介護生活に満足している ③ 介護は自分自身の成長につながっている ④ 介護に自信をもっている

表 2 質問紙調査の結果

構成概念	番号	質問項目案	第一回	第二回
自分の健康を保つ	1	定期的に健康診断を受けている	A	C
	2	休息がとれている	A	C
	3	息抜きの時間がもてている	A	A
	4	自分自身の楽しみの時間がある	A	A
療養者と良好な関係を築く	5	療養者とのこれまでの関係を振り返る機会がある	A	A
	6	療養者を大切に思っている	A	A
	7	療養者の思いをしっかりと聞いている	A	A
	8	自分の思いを療養者に伝えている	A	A
介護することを覚悟する	9	療養者の介護には自分の力が必要だと思っている	A	A
	10	療養者の希望をなるべくかなえたいと思っている	A	A
	11	療養者に安心して生活を送ってもらいたいと思っている	A	A
	12	できるかぎり、最後まで介護をやりきりたいと思っている	B	A
介護に必要な知識や技術を習得する	13	療養者の疾病・障害に関する知識がある	A	A
	14	介護に必要な社会資源の知識がある	A	A
	15	介護に必要な技術を身につけている	A	A
	16	自分なりに工夫して介護している	A	A
日常の介護において、自分で判断して行動する	17	日常の介護において療養者に起こり得る危険を知っている	C	A
	18	援助を要請する必要がある療養者の体調変化がわかる	A	A
	19	日常の介護に必要なことをまず自分で判断している	A	A
	20	自分で対応できないときの連絡先を知っている	A	A
他者の力を借りる	21	他者に介護の相談をしている	A	A
	22	社会資源を活用している	A	A
	23	周囲の人に介護の支援を求めている	A	A
	24	専門職からの助言を求めている	A	A
介護を肯定的に捉える	25	介護により励まされている	C	A
	26	介護生活に満足している	A	A
	27	介護は自分自身の成長につながっている	C	A
	28	自分は介護をうまくやれているほうである	C	C

表 3 質問紙調査の自由記述

項目案	第一回調査	第二回調査
1. 自分自身の体調管理を心がけている	定期的な診察 or 健康診断を受けている等の表現の方がわかりやすいのではないか	必ずしも健康診断ではなくとも良いのではないか
2. 休息がとれている		もう少し具体的な言葉で表現した方が区別しやすいように思う
5. 療養者とこれまでの良好な関係を振り返る機会がある	良好な関係だけではなく様々な事を乗り越えてきたという体験も重要なのではないか	
11. 療養者により良い生活を送ってもらいたいと思っている	・”療養者により良い生活を送って”という表現より療養者が希望する生活という表現の方がわかりやすい ・安全で安心して日常生活を送って頂きたい	
13. 療養者の疾病・障害に関する知識がある		
14. 介護に必要な社会資源の知識がある	他者でサポートできるのであまり重要ではない	
15. 介護に必要な技術を身につけている		
12. 最後まで介護をやりきりたいと思っている	最後までやり切りたい気持ちはあるが、施設入所等になればそれは仕方のないことだと思う	
17. 日常の介護において自分で判断して行動している	自己流で間違った判断の場合悪影響となる	
28. 介護に自信をもっている	介護者としては常にベストを目指しているが、要介護者の満足度が得られない場合がある	

IV. 考察

既存の家族介護者エンパワメントの尺度には、療養者に重きが置かれており、家族介護者に関する項目を含んだものは少ない。本研究における包括的な家族介護者エンパワメントの構成概念および項目案には【自分の健康を保つ】の構成概念に現れているように、家族介護者が、自分自身を大切にすることを要素が含まれている。先行研究によると在宅介護を継続するためには、主介護者の健康を守るための援助を行うことで、主介護者が介護を肯定的に捉えることができる¹⁰⁾ことや、主介護者が、ゆとりをもつことができるよう、介護から離れ気分転換する機会を確保し、そのことが、周囲からも支持されるようにする援助が重要であるとも言われている¹¹⁾。本研究では、訪問看護師への半構造化面接により、【自己管理しながら介護する】という構成概念が得られ、在宅介護を継続するためには、療養者だけでなく、家族介護者が、自分自身を大切にすることが重要であることが明らかになった。

また、自由記述欄に「他者でサポートできるのであまり重要ではない」という意見があるように、全てのことを家族介護者が完璧にできる必要はないと考えられる。点数の低い部分は、訪問看護師などの専門職がカバーし、どのようなサービスを提供すれば、家族介護者と療養者が在宅介護生活を継続できるのか、そのケアやサービスは、家族介護者のエンパワメントにどのようにつながっているのかを確認するための資料となる

V. 結語

本研究では、包括的な家族介護者のエンパワメント尺度開発のために、文献レビュー・インタビュー・質問紙調査を行った。その結果、家族介護者自身の要素を含んだ家族介護者エンパワメント尺度が得られた。

本研究の限界として、回収率の低さがあげられ、デルファイ法を参考にした専門家集団による評価には限界があったと言える。しかし、文献レビューによって既存の家族介護者のエンパワメント尺度から共通性のあるものを抽出でき、訪問看護師に対する半構造化面接により、文献レビューで得られた家族介護者のエンパワメントの構成概念および項目案を補強することができたと言

える。今後は、高齢者を介護している家族や重症心身障害児を介護している家族など、様々な疾患の療養者を介護している家族介護者を対象に調査を行い、包括的な家族介護者のエンパワメント尺度の開発に向けて項目を洗練し、信頼性・妥当性を検証していく必要がある。また、2回調査の結果C判定となった項目も再度妥当性を検証する必要がある。

利益相反

本研究に開示すべき COI は存在しない。

文献

- 1) 総務省 (2022 年 8 月 1 日) : 令和 3 年度社会生活基礎調査 生活時間及び生活行動に関する結果.
<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/pdf/gaiyousa.pdf>.
- 2) 厚生労働省. (2023 年 7 月 4 日) : 2022 (令和 4) 年国民生活基礎調査の概要 介護の状況.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/05.pdf>
- 3) 黄京蘭, 関田康慶 (2004) : 介護サービスに対する家族介護者の意識と評価に関する分析, 厚生 の 指 標, 51 (7), 9-15.
- 4) 涌水理恵, 藤岡寛, 古谷佳由理, 宮本信也, 家島厚, 米山明 (2010) : 障害児を養育する家族のエンパワメント測定尺度 Family Empowerment Scale (FES) 日本語版の開発, 厚生 の 指 標, 57 (13), 33-41.
- 5) 伊藤文子, 柳原清子, 田中君枝 (2009) : 生体腎移植術を受ける重度知的障害児の母親のエンパワメントとその支援—看護経過記録の内容分析から—, 家族看護学研究, 14 (3), 49-56.
- 6) 菅沼一平, 南征吾, 中西亜紀, 岡田進一 (2020) : 認知症の人の家族介護者 (主たる介護者) に対するエンパワメント評価尺度の開発, 厚生 の 指 標, 67 (2), 38-47.
- 7) 呉小玉 (2008) : 「主介護者エンパワメント尺度(MCEM)」の中国版の作成, 日本看護科学会誌, 28 (3), 3-13.
- 8) Felicity Hasson, Sinead Keeney, Huge McKenna (2000) : Research guidelines for the Delphi

survey technique, Journal of Advanced Nursing,
32 (4), 1008-1015.

- 9) 笹川仁美 (2020), 在宅ケアを行い家族を看取った主介護者の思いと思いへの影響要因, 城西国際大学紀要, 28 (8), 19-38.
- 10) 片山陽子, 陶山啓子 (2005) : 在宅で医療的ケアに携わる家族介護者の介護肯定感に関連する要因の分析, 28 (4), 43-52.
- 11) 長谷川喜代美 (2003) : 家族介護における主介護者の肯定的認識に着目した看護援助に関する研究, 9 (1), 8-16.